

II 「行動の気になる生徒のチェックリスト」

1 「行動の気になる生徒のチェックリスト」とは

この「行動の気になる生徒のチェックリスト（以下チェックリストと記載）」は、教師が特別な教育的ニーズの有無やその傾向を知ることができるように作成したもので、気になる生徒に対して、学習面や行動面に困難があるか実態把握をするためのツールとして活用するものです。そして、このチェックリストを活用することで、より詳細な考察の契機とするためのものとして作成しました。

【注意点】

※ このチェックリストは標準化されたものではなく、診断名をつけるために用いるものではありません。

※ このチェックリストは、教師が生徒の実態把握のために活用するためのもので、生徒自身が自己チェック等のために用いるものではありません。

どのような時に使いますか？

- ①特別な教育的ニーズがある生徒が入学してきた時に、生徒の傾向を知るために
- ②行動の気になる生徒がいた時に、特別な教育的ニーズの有無を知るために
- ③クラス全体の生徒の傾向を知り、全体指導に活かすために

どのように使いますか？

- ①担当の先生方が14領域56項目について「全くできない」1～「いつでもできる」4の中から当てはまるものをチェックしてください。

		いつでもできる	できることが多い	できることが少ない	全くできない	値
1 聞 く	話を聞き間違えないで聞くことができる (例:「聞いた」を「来た」など)	○4	○3	○2	○1	
	話の内容を聞きもらさないで聞くことができる	○4	○3	○2	○1	
	一斉による伝達事項を理解できる	○4	○3	○2	○1	
	HRやグループでの話し合いの流れを理解できる	○4	○3	○2	○1	
		平均		合計		

- ②自動計算用ファイル（巻末CD-R，または総合教育センターホームページよりダウンロードできます）を用いることで、領域ごとに平均点，合計点が自動計算され，最終画面にレーダーチャート（P11参照）として表されます。

- ③できるだけ生徒に関わる複数の教師の目でチェックできるとよいでしょう。

- ④すべての項目についてチェックすることが望ましいのですが，普段の生活や授業の中ですべてチェックできなければ，チェック可能な項目のみチェックして，生徒の大まかな傾向を見ることも可能です。

2 行動の気になる生徒のチェックリスト

下記の項目を見て、あてはまる数値をチェックしてください。

		いつでもできる	できることが多い	できることが少ない	全くできない	値
1 聞く	話を聞き間違えないで聞くことができる（例：「聞いた」を「来た」など）	○4	○3	○2	○1	0
	話の内容を聞きもらさないで聞くことができる	○4	○3	○2	○1	0
	一斉による伝達事項を理解できる	○4	○3	○2	○1	0
	HRやグループでの話し合いの流れを理解できる	○4	○3	○2	○1	0
	平均		合計		0	

P13
チェックリスト
の領域別支援
「聞く」へ

		いつでもできる	できることが多い	できることが少ない	全くできない	値
2 話す	日常生活の場面で状況に応じて話ができる	○4	○3	○2	○1	0
	言葉につまらないで話ができる	○4	○3	○2	○1	0
	相手にわかるように詳しく説明することができる	○4	○3	○2	○1	0
	自分の意図が伝わるように順序立てて話ができる	○4	○3	○2	○1	0
	平均		合計		0	

P14
チェックリスト
の領域別支援
「話す」へ

		いつでもできる	できることが多い	できることが少ない	全くできない	値
3 読む	教科書に書かれている漢字が読める	○4	○3	○2	○1	0
	文中の語句や行を抜かしたり、同じところを繰り返したりしないで読める	○4	○3	○2	○1	0
	英語の教科書の音読ができる	○4	○3	○2	○1	0
	短文の理解や記述してある事実の理解ができる	○4	○3	○2	○1	0
	平均		合計		0	

P15
チェックリスト
の領域別支援
「読む」へ

		いつでもできる	できることが多い	できることが少ない	全くできない	値
4 書く	宛名や解答用紙等の大きさや枠からはみださずに字を書くことができる	○4	○3	○2	○1	0
	アルファベット（大文字、小文字）・仮名・漢字が正しく書ける（鏡文字がない等）	○4	○3	○2	○1	0
	授業中、時間内にノートに書き写すことができる	○4	○3	○2	○1	0
	自分の考えをまとめて、文章に書くことができる	○4	○3	○2	○1	0
	平均		合計		0	

P16
チェックリスト
の領域別支援
「書く」へ

		いつでもできる	できることが多い	できることが少ない	全くできない	値
5 計算	簡単な四則計算ができる	○4	○3	○2	○1	0
	簡単な暗算ができる	○4	○3	○2	○1	0
	文字式を使った計算ができる（例： $3a + 2a$ 等）	○4	○3	○2	○1	0
	答えを得るのにいくつかの手続きを要する問題を解くことができる（例：四則混合の計算、二つの立式を必要とする計算、時間の計算など）	○4	○3	○2	○1	0
	平均		合計		0	

P17
チェックリスト
の領域別支援
「計算」へ

		いつでもできる	できることが多い	できることが少ない	全くできない	値
6 推論	割合の計算ができる（例：何%引きなどの計算や倍率の計算等）	○4	○3	○2	○1	0
	人物の心情などを理解できる	○4	○3	○2	○1	0
	実験の予測や、結果の意味などが理解できる	○4	○3	○2	○1	0
	飛躍した考え方をしないで、筋道を立てて考えることができる	○4	○3	○2	○1	0
	平均		合計		0	

P18
チェックリスト
の領域別支援
「推論」へ

		いつでもできる	できることが多い	できることが少ない	全くできない	値
7 粗大運動	道具と身体の動きを協調させて運動することができる（例：縄跳びやキャッチボール等）	○4	○3	○2	○1	0
	簡単な体操がスムーズにできる（準備運動や整理運動など）	○4	○3	○2	○1	0
	ボールを操作して走るなどバランスをとりながら運動することができる	○4	○3	○2	○1	0
	踏み台昇降などテンポに合わせて体を動かすことができる	○4	○3	○2	○1	0
※全身のバランス感覚や協調運動の様子をみる		平均		合計		0

P19
チェックリスト
の領域別支援
「粗大運動」へ

		いつでもできる	できることが多い	できることが少ない	全くできない	値
8 微細運動	プリントを正確に折ることができる	○4	○3	○2	○1	0
	はさみで曲線等を正確に切ることができる（例：紙や布の裁断，美術の制作活動等）	○4	○3	○2	○1	0
	定規を正しく操作できる	○4	○3	○2	○1	0
	パソコンのマウスやキーボードの操作をすることができる	○4	○3	○2	○1	0
※手先の器用さをみる		平均		合計		0

P20
チェックリスト
の領域別支援
「微細運動」へ

		いつでもできる	できることが多い	できることが少ない	全くできない	値
9 注意力	最後まで作業・仕事を終わらせることができる（できは問わない）	○4	○3	○2	○1	0
	片付けや整理整頓ができる（例：ロッカーの中，カバンの中，机の周り等）	○4	○3	○2	○1	0
	忘れ物をしないで，学習や活動に必要なものの準備ができる	○4	○3	○2	○1	0
	指示に沿った行動がとれる	○4	○3	○2	○1	0
		平均		合計		0

P21
チェックリスト
の領域別支援
「注意力」へ

		いつでもできる	できることが多い	できることが少ない	全くできない	値
10 落ち着き	授業や係活動等に落ち着いて参加できる	○4	○3	○2	○1	0
	授業中に席を離れたり，手足をそわそわと動かしたりしないでいられる	○4	○3	○2	○1	0
	話題をめまぐるしく変えずに一貫性を保って話すことができる	○4	○3	○2	○1	0
	授業中状況に応じて発言をすることができる（例：質問が終わらないうちに答えるなど）	○4	○3	○2	○1	0
		平均		合計		0

P22
チェックリスト
の領域別支援
「落ち着き」へ

		いつでもできる	できることが多い	できることが少ない	全くできない	値
11 自制心	人の話の途中で割り込んだりしないで，最後まで人の話を聞ける	○4	○3	○2	○1	0
	マナーやルールを守ることができる	○4	○3	○2	○1	0
	他人を妨害したり邪魔したりしない（悪意でなく）で生活できる	○4	○3	○2	○1	0
	不満や怒りをコントロールできる	○4	○3	○2	○1	0
		平均		合計		0

P23
チェックリスト
の領域別支援
「自制心」へ

		いつでもできる	できることが多い	できることが少ない	全くできない	値
12 変化への適応	急な予定変更にも対応できる	○4	○3	○2	○1	0
	校外学習など初めての場面でも落ち着いて行動できる	○4	○3	○2	○1	0
	パターン化された行動や手順にこだわらないで臨機応変に行動できる	○4	○3	○2	○1	0
	相手や状況に合わせて活動を切り替えることができる	○4	○3	○2	○1	0
		平均		合計		0

P24
チェックリスト
の領域別支援
「変化への適応」へ

		いつでもできる	できることが多い	できるが少ない	全くできない	値
13 対人関係	同年齢の仲間関係が作れ、友達関係が作れる	○4	○3	○2	○1	0
	まわりの雰囲気や状況、暗黙のルールに合わせた行動がとれる	○4	○3	○2	○1	0
	他者と適切な距離がとれる (例: 話す時に近づきすぎない)	○4	○3	○2	○1	0
	周りの人を不愉快にしないように配慮して行動することができる (例: 人の体型や体臭のことについて言わない)	○4	○3	○2	○1	0
	平均		合計		0	

P25
チェックリスト
の領域別支援
「対人関係」へ

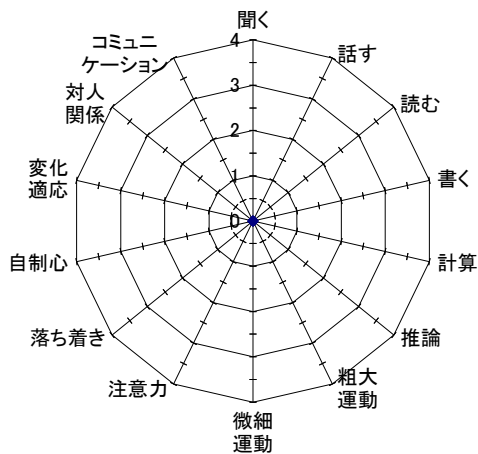
		いつでもできる	できることが多い	できるが少ない	全くできない	値
14 コミュニケーション	相手や状況に応じた言葉遣いができる	○4	○3	○2	○1	0
	仲間と一方的でない会話ができる	○4	○3	○2	○1	0
	相手の興味や関心に合わせた会話ができる	○4	○3	○2	○1	0
	冗談や皮肉の意味が理解できる	○4	○3	○2	○1	0
	平均		合計		0	

P26
チェックリスト
の領域別支援
「コミュニケーション」へ

各領域の平均得点

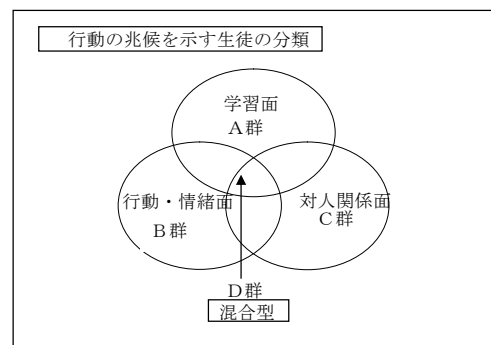
聞く	話す	読む	書く	計算	推論	粗大運動	微細運動	注意力	落ち着き	自制心	変化適応	対人関係	コミュニケーション

行動チェックリストレーダーチャート



チェックリストのレーダーチャートに表れる特徴

※このチェックリストは、生徒の特別な教育的ニーズを学習面 (A群), 行動・情緒面 (B群), 対人関係面 (C群) の3つのタイプに分類することができますが、特別な教育的ニーズがある生徒の行動特徴は、右図の混合型 (D群) のように重複していることが多くあります。

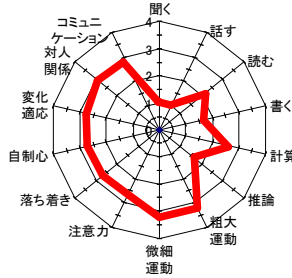


※このチェックリストは、標準化されたものではありません。しかし、教育的支援においては、一人一人の「教育的ニーズ」を捉えることが大切です。そこで、こうした「教育的ニーズ」を把握する過程のひとつとしてご活用ください。必要に応じて、心理検査等とあわせて活用するとよいでしょう。

II 「行動の気になる生徒のチェックリスト」

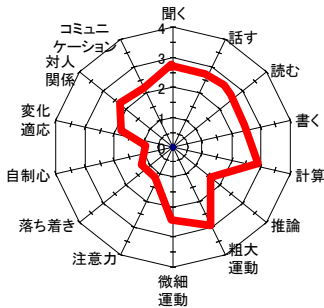
3 チェックリストのレーダーチャートに表れるタイプ別の支援について

A群（学習面で支援が必要なタイプ）



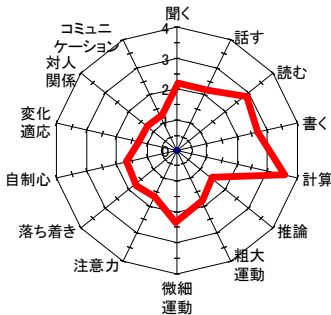
学習を積み重ねにくい何らかの要因があることが予想されます。経験や学習量の不足、心理社会的に不適切な環境、あるいは認知上の特徴からこれまでの学習方法では学びにくい傾向があるのか、様々な要因を検討していくことが必要です。

B群（行動・情緒面で支援が必要なタイプ）



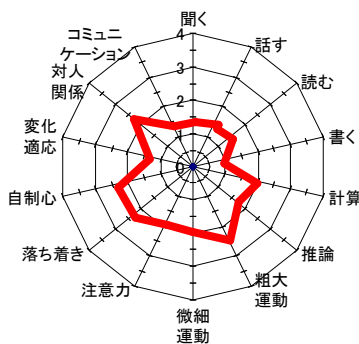
落ち着いて学習をしようとしても、集中し続けることができにくい何らかの要因があることが予想されます。これまでの生活経験の不足、心理社会的に何らかの不適切な環境、あるいは本人にとって、もともと集中し続けることが難しい特性があるのか等、様々な要因を検討していくことが必要です。また叱られたり、失敗経験ばかり積み重ねたり、自己肯定感が下がり悪循環に陥っている場合もあります。

C群（対人関係面で支援が必要なタイプ）



場面や状況に応じた行動を調整することや、人との適切な関わり方が理解しにくい何らかの要因があることが予想されます。A群やB群と同様、様々な要因を検討していくことが必要です。また、人と適切に関われない体験や、失敗経験ばかり積み重なると、自己肯定感が下がり、さらに集団不適応を悪化させるという悪循環に陥っている場合もあります。

D群（混合型タイプ）



14領域のどの項目も低い場合は、様々な困難さのある生徒たちです。要因として以下のようなことが考えられます。

- ・学習上の困難さが基本的な問題だが、二次的的症状として不適応行動も起こしている。
- ・行動・社会性等の問題の二次的的症状として学業不振を起こしている。
- ・軽度知的障害がある。
- ・環境要因も含め、様々な問題が複雑に絡んでいる。

このように現れが重複していると考えられる生徒たちは、指導が難しいと考えられます。

実態を把握して基本の障害と二次的的症状、環境要因等を整理していきましょう。必要に応じて専門機関や医療機関と連携して指導にあたることも大切です。

II 「行動の気になる生徒のチェックリスト」

その他の群（複数の行動兆候があるタイプ）

D群のほか、A群とB群、A群とC群、B群とC群など、複数の行動兆候を併せ持つ事例もあります。どの事例の場合も、どこにどのような問題があるのか実態をよく把握して指導にあたります。指導にあたっては、以下のように内容を整理して、生徒に応じた目標を持って取り組むことが望まれます。

- ① 学力を補充し、学習内容についていくための教育的支援の在り方
- ② 社会性・対人関係を改善し、集団活動ができるようになるための教育的支援の在り方
- ③ 自分の気持ちをコントロールし、情緒の安定した生活ができるようになるための教育的支援の在り方
- ④ 必要に応じた専門機関との連携の在り方

タイプ別支援例については、A群、B群、C群、D群、その他の群のように整理しましたが、レーダーチャートの結果がこのように典型的に現れる訳ではありません。レーダーチャートの結果から、どの領域に困難さがあるのかを丁寧に見きわめることで、その生徒の特性を把握して、一人一人に応じた指導や支援をすすめていくことが大切になります。

【心理検査について】

生徒の実態の把握をする際に、「行動の気になる生徒のチェックリスト」や学習や行動の観察等だけでは十分に生徒の特性が分からない場合があります。このような時に、外からだけでは見えにくい問題の背景を見つける際の手がかりとなるのが検査です。検査は実施すること自体が目的ではなく、本人が困っていることや悩んでいることをはっきりとさせて、解決の糸口とするものといえます。

また、実施に際しては、生徒や保護者に対して何が有益になるのかを、検査者と本人や保護者と共通理解をすることが必要です。

以下に、主な検査の概要を記載します。

【田中・ビネー知能検査V】

年齢段階ごとに、言語、動作、記憶、数量、知覚、推理、構成などの内容の項目が配置され、精神年齢（MA）、知能指数（IQ）として知的水準を測定する。各問題の可否の傾向やWISC-IV等の結果とのつきあわせ等、総合的に分析し、解釈していくことが必要です。

ウィスク フォー 【WISC-IV 知能検査】

WISC-IVの適用年齢は16歳11ヶ月までで、言語性知能と動作性知能、また群指数として言語理解、知覚統合、注意記憶、処理速度の4つの尺度を測定することができます。評価点プロフィールで示すことで、「個人内差」という視点から知的発達を捉え、指導の手がかりを得ることができます。

同じウェクスラー系の知能検査として、16歳から89歳までの成人に適するWAIS-III（IV）の検査があります。

※検査の実施や解釈については、スクールカウンセラーに依頼したり、関係機関（P51～参照）や特別支援学校と連携したりすることが必要です。